

ESPERANZA

三田西陵高校24回生 2017.1.11発行 No.12

『一年の計は…』

3組担任・小野成伸

1年生の皆さんが充実した冬休みを過ごしたことだと思います。一般に『一年の計は元旦にあり』と言われますが、今年一年間をどう過ごすか考えましたか？皆さんは長期休業期間や考査の前に計画表を書く取り組みを続けています。しかし、一年365日の計画表を書くのは困難を極めるのが現実でしょう。

古来、君達の年代を「疾風怒濤の時代」と称し、嵐の海を漂う小舟に喩えてきました。大人の仲間入りをしようとしている君達は今後の長い生涯、様々な課題や壁に直面することが当たり前になります。波風もなく視界も良好で、遙か先を見通すことはできなくなります。365日の予定表は修正・変更を余儀なくされます。固い決意で初志貫徹することも大切ですが、危険を回避し、晴れ間を待ち臨機応変に海を渡りきる柔軟さも重要です。様々な考えを尊重し、思慮深く行動できる高校生に成長してほしい。それが家族の方や私達学年団の願いです。

障壁も選択肢も多く、途方に暮れそうな生活の中にあっても、君達には、学問的にも人間的にも成長する方法はあります。それは「目標だけは下げる」ということです。荒波を言い訳にしてはいけない。船、つまり自分の性能を卑下してもいけません。そのためには是非身に付けてほしいことを述べます。

「基礎学力を付けること」この一言に尽きます。

学力とは「コミュニケーション能力」とも言えます。これは語彙が豊富で表現が巧み、といった狭い意味のものではありません。言葉や文字で伝えることができるものは意外にも少ない。それよりも、立ち居振る舞いや表情の方が雄弁です。

顔を上げて話す人を見ない、過ちを指摘されても改めようとしない、つまり他人の話を無視し、向上心を見せない。このような態度をとることは、せっかくの成長する機会を、自ら放棄していることになります。仲間も少なくなってゆきます。

既に気付いていると思いますが、高校生になれば、他者と良好な関係を築き、ともに問題を解決できる人材が、個人として尊重されます。幼い自分のままでは、豊かな人生を送ったり、夢や希望を実現したりすることはできません。上に述べた力を付ける努力してください。君達自身が驚くほど自分が高まってゆくことに気付くでしょう。その実感が自信を産みます。自信があれば他人との対話能力が身に付きます。その好循環でます君達の勉学の力は伸び、魅力が輝くのです。

更に未来を見つめよう

昨年12月20日の進路ガイダンスではそれが自分の興味のある分野で、大切な話を聞くことができたと思います。今後皆さんには様々な場面で将来の選択をしてゆくことでしょう。ここで述べたいことは「決断は自分自身です」ということです。

昨年25年ぶりに広島東洋カープを日本一に導き、引退した黒田博樹投手（41歳）のことを皆さん知っているだろうか？黒田氏は1997年に広島に入団。10年の活躍後、同チームからアメリカに渡り、野茂英雄・松坂大輔投手と並ぶ活躍を評価されました。黒田氏は一昨年、自身の年齢を考え、自ら帰国を決断し、残された選手生命を日本の野球に傾けました。そしてシリーズ優勝後、「苦しみの多いプロ野球生活だったが悔いはない」という言葉を残して去りました。『耐雪梅花麗』という氏の座右の銘が野球ファンだけではなく、多くの人々の心を揺さぶったのは記憶に新しいことです。黒田氏は決断をする時には「どの道へ進むにも必ず後悔はする」と自らに言い聞かせていたといいます。ただ氏が最後に「悔いなし」と言い切ったのは以下の理由があると思います。

私達も様々な場面で選択を迫られることが少なくありません。「選択」と言う言葉には、時として選ばれている、という消極的な響きがあります。同じことであっても、黒田氏のように「決断」という言葉をつかいたいものです。そこには自らの強い意志がみなぎっているからです。

ただ、君達はまだ若く、経験値も豊富ではありません。ですから、先人の言葉や友人との真摯な語らいは必要です。その上で積極的に決断力を身に付けてもらいたいものです。何もしなかった後悔と、努力したが実を結ばなかった後悔には、雲泥の差があります。自分を律し、チャンスを掴む知恵と行動力を伸ばす大切な要素です。君達の成長を期待しています。



真剣に聴く姿

目をそらさない勇気

また、その前日の16日には避難訓練があり、その後1年生防災リーダーによる東日本大震災について報告がありました。迅速で静粛に避難し、講評を頂いたのち24回生の代表が、見聞してきた被災の実態を報告、体育館にいる生徒の目は発表者

に集中していたことに感銘を受けました。

「百聞は一見に如かず」という言葉通り、スクリーンに映し出される東北の街の様子は、自然の猛威を改めて感じさせられるものでした。地元兵庫でも今もなお、震災の鮮明な記憶に震えている人々の姿を思い返すほど衝撃的でもありました。

さて、皆さんには防災リーダーの報告が災害の恐ろしさだけでなく、人々が手を取り合い、未来へ手を伸ばす強さも伝えてくれたことに気付きましたか？私達は生涯を通して、見たくないものの、触れたくないものに出逢います。その多くは恐らく避けては通れないでしょう。しかし、いつも傍に誰かがいることを忘れないようにしたいものです。そして困った時、救いの手を差し出す人達との絆を大切にしたいものです。



懸命に伝える姿

力を惜しまない人の魅力

昨年12月30日に、全日本高校女子サッカー選手権が兵庫県三木市で行われました。君達も知っているように年末年始にも、有名な箱根駅伝をはじめ様々な大会が催されます。お正月にゆっくりとTVで観ているだけでも「この時期に休むことなく刻苦している人々がいるのだな」と賞賛したくなりますね。

本校の女子サッカーチームは全員が欠席することなく、寒風の中で運営に携わりました。そして出場の選手は「縁の下の力持ち」の支援があったがゆえに、全力で戦うことができました。裏方として活躍した高校生諸君にも敬意を払いたい…そう思える清々しい年末でした。三田西陵生の一人ひとりが奉仕の精神を培って、学校や社会の福祉のために貢献して欲しいものです。



この姿みていたよ